



2026 年 8 月 24 日

佐田建設株式会社

日建連広報誌『ACe 建設業界』への「アーツ前橋」掲載について

佐田建設株式会社（代表取締役社長 星野 克行）が施工した「アーツ前橋」（群馬県前橋市千代田町 5 丁目 1-16）が、日本建設業連合会の広報誌『ACe 建設業界』2026 年 8 月号の特集「リノベーションが照らす建築の可能性－建物が紡ぐ『時』に価値を与える」に掲載されました。

【特集の主旨】

リノベーションには「修繕」「改修」の意味に加え、「革新的」「活気づける」というニュアンスが含まれる。建築物に新たな機能と価値を付与するリノベーションの重要性が指摘されて久しい。その背景には環境問題や経済合理性、スクラップアンドビルドに対抗する今様の価値観といった要素がある。文化財級の歴史的な建築物や老朽化が懸念される建物が纏ってきた人々の記憶、その地域の時の流れを未来につなぐ。今、求められているリノベーションとは、その先に見える建設、建築の可能性を探る。

群馬県を代表する文化施設の一つであるアーツ前橋の施工に携われたことを誇りに思います。建物を持つ歴史や価値を次世代へ受け継ぎながら、新たな役割を与えるリノベーションは、持続可能な社会の実現にもつながる重要な取り組みです。当社はこれからも、地域に根ざす建設会社として、安全で品質の高い施工を通じて、豊かなまちづくりに貢献してまいります。

今後とも一層のご支援ご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。



商業施設を再生して
美術館に アーツ前橋

アート・アーツ前橋 施設・大宮中広

市民が公開し、アイデアでまちを活性化するの理想を抱くことになった。

一九八八年の市議会の臨席にも「栗原地区の文化財あり、当時から高層建物の建て替えていた経緯はよく受け継がれます。市役所W Aビルには国際基準より十メートル上っており、南側市街はこの建物を購入し改修することを最終決定」とのことで翌二〇〇八年は、市民を中心とし、芸術構想を描いてのワークショップを開催。翌年に設計委員会を設置し、最終では計画の定めに沿って設計・造りのプロポーザル方式に協賛を進められ、基本構想決定からは、その中から一としてアーやツグが中心となり、創造力を働かせる。美観の滑



Fig.12-15 富田公園緑地から見た小笠原東

Fig.12-15 富田公園緑地から見た小笠原東

12

[illegible]

たりだった？「あの雄姿麗さんは
確かに地下一階にあつたよね」以
前の建物をこぼれの方からはそん
な言葉が聞こえてきます。当時の
デパートの記憶がリノベーションに
よつて建物に残され続けているのだ
と思います——江氏は語す。

通常の美術館にはない
建物の魅力

ティストや市民とともに向き合う
 このときの動物の記憶と正しく刻ま
 れること、あるが、あるが、あるが、
 まの空に、向き合うことで、一瞬
 留頓なら、それは、その瞬間、その瞬間
 になること、

芸術空間に、それ、(前編)の、美術
 2022年、では、作品の展示に、一瞬
 身体表現、披露、という、一瞬
 後の、スチル、では、一瞬、一瞬
 で、パフォーマン、が、演じ、られます。
 アートを、身近なもの、として、受、
 ける、機会、にも、期待、してい、
 ます。一瞬、一瞬、が、笑、を見、つけ、

1 / 100 2026.08

「加賀っ子」から地下1階に下りたエリアの天井中へ上りと完全逆（下）の様子。階段を歩くとあふれて暖か。板内にプロムナードが通れる。奥の階段は55センチのきつな作りを見学することもできる（提供：TOSHI-BIRO MUTANI ARCHITECTS）

「ガレージから地下1階に下りるエリアの施工中(上)と完成後(下)の様子」

建築物を蘇らせる想い

シヨンを実現できたという例もある。とはいうものの、通常の解体・転築という工事ではない。既、建屋でいかに美術館らしい天井高を確保するか、電気ケーブルの室内配ダクトが縦横に走る天井裏に特注の照明器具をとりこめるか。施の難易度は高い。発注者の前例なく設計者と日々詳細な交渉を重ねたという。「当時ではP1Mも一般的ではなく、CADを使った発注は三週間も時間

もかかりましたが、既存の建物を蘇らせるという関係者の想が一つになっただけで、実現できずにプロジェクトだと思いきやと話す。設計費更迭少なくなかった。状況を鑑み急遽に決まることになって、手を加えた工程の周辺にあるデザインや、次工程のために干涉、影響するものが最終に課題に向き合った。モックアップをいくつも製作して、関係者が議論を重ねる毎日だったという。

[illegible]

FCR 2026.08

以上